

## ユダの書

## 第一章

一 イエス・キリストの僕にしてヤコブの兄弟なるユダ、書を召されたる者、すなはち父なる神に愛せられ、イエス・キリストの爲に守らるる者に贈る。二 願はくは憐憫と平安と愛と、なんぢらに増さんことを。

三 愛する者よ、われ我らが共に與る救につき勵みて汝らに書き贈らんとせしが、聖徒の一たび傳へられたる信仰のために戦はんことを勸むる書を、汝らに贈るを必要と思へり。四 そは敬虔ならずして我らの神の恩恵を好色に易へ、唯一の主なる我らの主イエス・キリストを否むものども潜り入りたればなり。彼らが此の審判を受くべきことは昔より預じめ録されたり。

五 汝らは固より凡ての事を知れど、我さらに汝等をして思ひ出さしめんとする事あり、即ち主エジプトの地より民を救ひ出して、後に信せぬ者をこし給へり。六 又おのが位を保たずして己が居所を離れたる御使を、大なる日の審判まで、闇黒のうちに長久の縄目をもて看守し給へり。セソドム、ゴモラ及びその周圍の町々も亦これと同じく、淫行に耽り、背倫の肉慾に走り、永遠の火の刑罰をうけて鑑とせられたり。ハかくの如くかの夢見る者どもも肉を汚し、權威ある者を輕んじ、尊き者を罵る。九 御使

の長ミカエル惡魔と論じてモーセの屍體を争ひし時に、敢へて罵りて審かず、唯「ねがはくは主なんぢを戒め給はんことを」と云へり。一〇 されど此の人々は知らぬことを罵り、無知の獸のごとく、自然に知る所によりて亡ぶるなり。二 禍害なるかな、彼らはカインの道にゆき、利のためにバラムの迷に走り、またコラの如き謀反によりて亡びたり。三 彼らは汝らと共に宴席に與り、その愛餐の暗礁たり、憚らずして自己をやしなふ牧者、風に逐はるる水なき雲、枯れて又かれ、根より抜かれたる果なき秋の木、一三 おのが恥を湧き出す海のあらし波、さまよふ星なり。彼らの爲に暗き闇、とこしへに蓄へ置かれたり。一四 アダムより七代に當るエノク彼らに就きて預言せり。曰く、視よ、主はその聖なる千萬の衆を率ゐて來りたまへり。一五 これ凡ての人の審判をなし、すべて敬虔ならぬ者の不敬虔を行ひたる不敬虔の凡ての業と、敬虔ならぬ罪人の、主に逆ひて語りたる凡ての甚だしき言とを責め給はんとなり。一六 彼らは眩くもの、不満をならす者にして、おのが慾に隨ひて歩み、口に誇をかたり、利のため人に諂ふなり。

一七 愛する者よ、汝らは我らの主イエス・キリストの使徒たちの預じめ言ひし言を憶えよ。一八 即ち汝らに曰らく「末の時に嘲る者おこり、己が不敬虔なる慾に隨ひて歩まん」と。一九 彼らは分裂をなし、情慾に屬し、御靈を有たぬ者なり。二〇 されど愛する者よ、なんぢらは己がいと潔き信仰の上に徳を建て、聖靈によ

りて祈り、<sup>二</sup>神の愛のうちに己をまもり、永遠の生命を得るまで我らの主イエス・キリストの憐憫を待て。<sup>三</sup>また彼らの中なる疑ふ者をあはれみ、<sup>四</sup>或者を火より取出して救ひ、或者をその肉に汚れたる下衣をも厭ひ、かつ懼れつつ憐め。

<sup>二四</sup>願はくは汝らを守りて躓かしめず、瑕なくして榮光の御前に歡喜をもて立つことを得しめ給ふ者。<sup>二五</sup>即ち我らの救主なる唯一の神に、榮光・稜威・權力・權威、われらの主イエス・キリストに由りて、萬世の前にも今も萬世までも在らんことを、アアメン